

表象文化論学会

the Association for Studies of Culture and Representation

第16回研究発表集会

共催
関西大学映像文化学会、科学研究費補助金「現代美術と映像メディアに関する実証的研究」(代表者:馬定延、21K00135)

対面参加(定員150名)
会 員=無料
非会員=1000円(シンポジウムのみ無料)

オンライン参加
会員・非会員ともに無料



詳しいご案内とご登録は
公式サイトから
<https://www.repre.org>

近年、日本で制作・発表した《旅館アポリア》(2019年)、《ヴォイス・オブ・ヴォイドー虚無の声》(2021年)、《百鬼夜行》(2021年)を通じて広い関心を集めたアーティスト、ホー・ツーニエン(シンガポール、1976年生まれ)氏を招いたシンポジウム。ホー氏は未解決の諸歴史を再考するにあたって、ビデオ、アニメーション、アルゴリズム・システムなどのさまざまな実験を行ってきました。その批評的方法論に重点を置いた基調講演を受けて、これまでの20年の映像表現の実践から「時間」をめぐる新作へ導く航路を、3人の登壇者とともに探ります。——馬定延

時間に対して、過去・現在・未来という、少なくとも三つの「層」あるいは種類について考察することができるでしょう。未来は、開かれていて不確定な、推測と予期の層であり、ユートピア/ディストピアのエネルギーの容器です。過去は、確定され凍結している層のように見えますが、実際には新しい言説の体制によって常に再演・修正・再構成されています。しかし、私にとってより重要なのは、過去の中に、再帰的・回帰的なある種のエネルギーが存在しているということです。それは、脱植民地化というプロジェクトのような、未完の何かとしての過去です。これらのエネルギーは、トラウマ、あるいは亡霊のように、絶えず回帰し現在に取り憑きます。つまり、私にとって現在とは、未来と過去の両方に向かって果てなく分岐しつづける合成物のようなものです。この基調講演では、文字通りにであれ、隠喩的にであれ、制作のプロセスによって与えられる性質としてであれ、異なる時間性の共存で特徴づけられている諸映像に注目することで、過去20年(ほど)にわたる私の映像制作の実践を、回顧的(レトロスペクティブ)/予測的(プロスペクティブ)に概説を試みます。——ホー・ツーニエン

司会
馬定延
関西大学

大坂紘一郎
アサクサ・京都芸術大学

京都大学

木下千花

新井知行

YPAMー横浜国際舞台芸術ミーティング

映像と時間…
レトロ/プロレスペクティブ
についてのくくつかの覚書
Keynote Speech: Ho Tzu Nien
Images and Times: Some Notes on
the Retro/Pro-spective

基調講演
ホー・
ツーニエン
アーティスト

関西大学

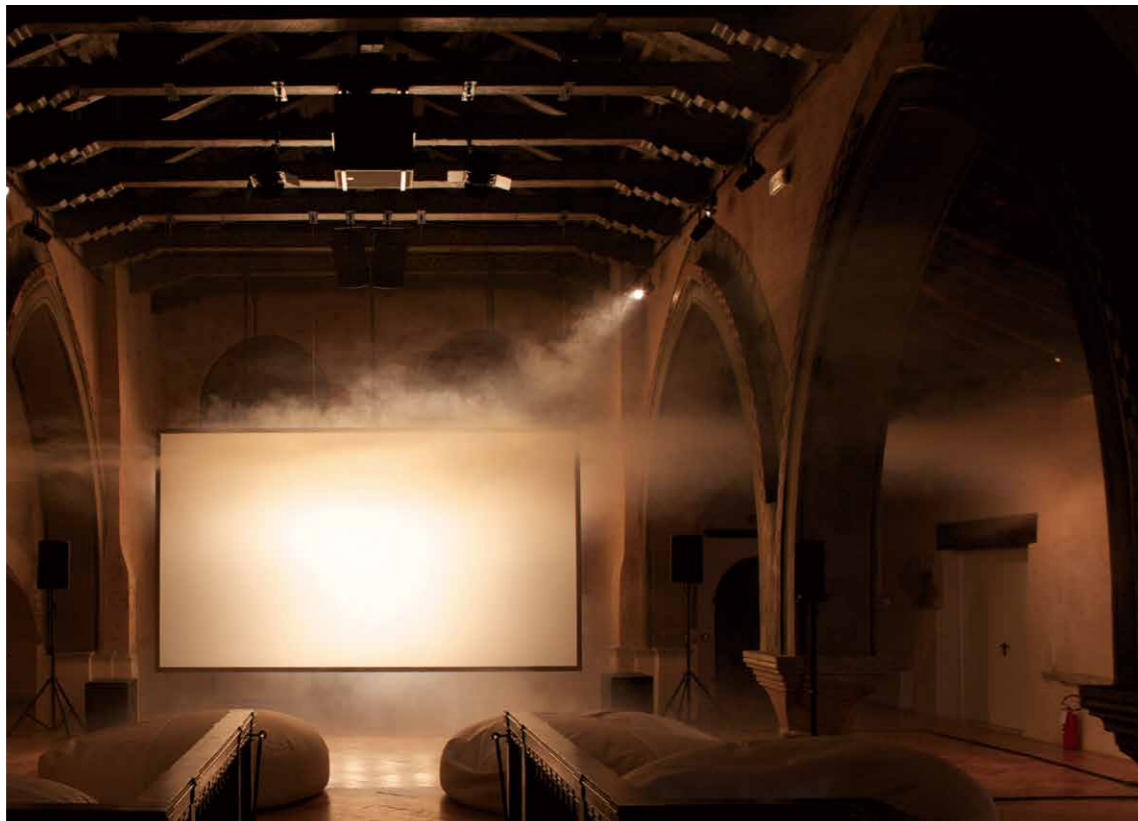
梅田キャンパス+オンライン

〒530-0014
大阪府大阪市
北区梅田町5-5



2022.II.12 Sat
10:00-18:30
シンポジウム 16:30-18:30
II.13 Sun
13:00-18:30

映像
時間と像
シンポジウム



2022.11.12 [土]

対面セッション (一部ハイブリッド開催)

午前 | 10:00-12:00/12:30

10:00-12:30 研究発表1

8階ホールA

女は共有可能か？
—初期ソ連映画が描いた共同住宅
コムナルカの性愛
本田晃子 (岡山大学)

ロベール・ブレッソン
『少女ムシュット』における
断片化の説話的機能を巡って
三浦光彦 (北海道大学)

記録映画と私小説の交差点
—今村太平の記録映画論の再考察
王琮海 (立命館大学)

殺しのアナキズム
—大和屋竺監督作『毛の生えた拳銃』論
崔文婕 (北海道大学)

司会 | 堀潤之 (関西大学)

10:00-12:00 研究発表2

8階ホールB

ダンサーの存在論と
身体的実践の往還
—土方巽の舞踏における立ち方に注目して
岡元ひかる (武庫川女子大学)

島岡達三の象嵌縄文に
関する考察
—「地」としての紋様という観点から
佐々風太 (東京工業大学)

ハンス・ゼードルマイヤによる
大聖堂のイコノロジー
二宮望 (京都大学)

司会 | 岡田温司 (京都精華大学)

10:00-12:00 ワークショップ1

8階ホールC

生き物から私たちを考える
—擬人主義・オルタリティ・動物文学
江川あゆみ (早稲田大学)
近藤玲 (筑波大学)
難波優輝 (newQ・立命館大学)

10:00-12:00 ワークショップ2

7階705

組積研WS
—ブロック玩具で探究する
「都市の建築」の表象
谷田部僚太 (東京都市大学)
高橋尚弥 (東京都市大学)
柏崎健汰 (東京都市大学)

司会 | 片桐悠自 (東京都市大学)

コメンテーター | 小見山陽介 (京都大学)

午後1 | 13:30-15:30/16:00

13:30-15:30 研究発表3

8階ホールA

明治幻燈からみる
近江日野商人の着眼点
—三陸海岸大津波の表象を中心に
福島可奈子 (早稲田大学/日本学術振興会)

二次創作における物語の法則
—テキストの生成をめぐる
定型性と不定型性に注目して
石川優 (大阪公立大学)

Amateurism and Professional-
ism in Sports as Reflected in
Japanese Cartoon Animation
Joachim Alt (National Museum of Japanese History)

司会 | 松谷容作 (追手門学院大学)

13:30-15:30 研究発表4

8階ホールB

Rethinking Identity and
Female Images in Xinjiang
Ethnic Minority Films in the
Seventeen Years (1949-1966)
Li Wenxin (Nagoya University)

民族の分離
—『嗚呼 満蒙開拓団』における引揚者と
残留孤児との交差的な表象について
羅霄怡 (名古屋大学)

『海角七号』の「融和」が
もたらす台湾ナショナリズムの高揚
—言語の含意と視点の転換から導かれる
非優位的な日本表象
原口直希 (京都大学)

司会 | ミツヨ・ワダ・マルシアーノ (京都大学)

13:30-16:00 研究発表5

8階ホールC (一部ハイブリッド開催)

その恋闕を見るのは誰か？
—三島由紀夫作品を通して見る
『刀剣乱舞』のまなざしの構造
渡部宏樹 (筑波大学) ※オンライン発表

「逆シミュレーション音楽」における
物語とその解釈における
(非/)身体性
大久保美紀 (パリ第8大学) ※オンライン発表

機械の外の幽霊
—関係論的アプローチとアニメイテッド・ペルソナ
伊藤京平 (立命館大学)

「出来事」の解釈学
—フレドリック・ジェイムソンのサルトル受容
客本敦成 (大阪大学)

司会 | 小田透 (静岡県立大学)

※オンライン発表は対面会場/オンラインの両方から聴講していただけます。対面発表のオンライン中継はありません。

13:30-15:30 ワークショップ3

7階705

いかに「準備」しないか
—即興演劇の上演形式
「The Bechdel Test」における
関係性の「発見」
直井玲子 (東京学芸大学)
園部友里恵 (三重大学)

午後2 | 16:30-18:30

シンポジウム

8階ホール

映像と時間 レトロ/プロ=スペク テイヴについてのいく つかの覚書

基調講演 | ホー・ツーニエン (アーティスト)

新井知行 (YPAM - 横浜国際舞台芸術ミーティング)
木下千花 (京都大学)
大坂紘一郎 (アサクサ・京都芸術大学)

司会 | 馬定延 (関西大学)

2022.11.13 [日]

オンラインセッション

午後1 | 13:00-15:00

13:00-15:00 書評パネル1

オンライン (上映会場 | 7階703)

甲斐義明『ありのままのイメージ—
スナック美学と日本写真史』を読む

甲斐義明 (著者/新潟大学)
土屋誠一 (沖縄県立芸術大学)
前川修 (近畿大学)
佐藤守弘 (兼司会/同志社大学)

13:00-15:00 書評パネル2

オンライン (上映会場 | 7階705)

渡名喜庸哲
『レヴィナスの企て—『全体性と
無限』と「人間」の多層性』を読む
渡名喜庸哲 (著者/立教大学)
合田正人 (明治大学)
福尾匠 (立教大学/日本学術振興会)
郷原佳以 (兼司会/東京大学)

午後2 | 16:00-18:00/18:30

16:00-18:00 研究発表6

オンライン (上映会場 | 7階703)

「象徴するものを
象徴されるものそれ自体にする」
—ヴァルター・ベンヤミンにおける星座-布置
の前駆形態としての象徴的連関
高田翔

「空間の生産」と
ユートピア的・ヘテロピア的身体
—ルフェーヴルとフーコー
上田由至 (筑波大学)

前期デリダにおける
〈言おうとすること〉と〈書こうとすること〉
—現象学と批評を架橋するもの
森脇透青 (京都大学)

司会 | 宮崎裕助 (専修大学)

16:00-18:30 研究発表7

オンライン (上映会場 | 7階705)

「聞こえない音の言説空間」の変容
—「超音波」「低周波音」「体感音響」
を事例に
岡野宏 (電気通信大学)

聴覚で捉える新海誠作品
—モノログ・シーンに注目して
中島望 (学習院大学)

彫刻と「場」、あるいは「場」の彫刻
—日本におけるポストミニマリズム受容と
「人間と物質」展に着目して
高橋沙也葉 (京都大学)

岡本太郎作品における
現代性と呪術
—《明日の神話》のイメージ分析を中心に
木下紗耶子 (東京大学)

司会 | 福田貴成 (東京都立大学)



事前登録制
対面、オンラインともに参加には事前登録が必要
です。

11月12日(土)に開催される対面セッションは、シ
ンポジウムのみオンライン中継を実施する予定
です。その他の対面セッションのオンライン中継
はありません。
11月13日(日)のすべてのセッションはオンライ
ンで開催されます。対面会場 (関西大学梅田キャン
パス) にオンラインセッションの上映会場を設ける
予定です (定員30名、最低開催人数5名)。

詳しいご案内とご登録は
公式サイトから
<https://www.repre.org>



*対面会場では、開催時において政府・地方自
治体および関西大学が要請している基準にし
たがって、マスク着用、消毒、換気などの新型コ
ロナウイルス感染症対策を講じます。

*プログラムは予告なく変更されることがありま
す。詳細及び最新情報は表象文化論学会ホーム
ページ (<https://www.repre.org>) をご覧ください。
共催 | 関西大学映像文化学会、科学研究費補
助金「現代美術と映像メディアに関する実証的
研究」(代表者 | 馬定延、21K00135)

問い合わせ先
表象文化論学会第16回研究発表集会
実行委員会

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35
関西大学文学部映像文化専修合同研究室内
E-mail | conference@repre.org
URL | <https://www.repre.org>